

合併の影響を商業と農業で見ると 藤島は5年間で売上が半減、農業は減反強化

市は5年間で従業者数700人、売上290億円減る

202事業所（△11.62%）が減っています。この現状はまさに「デフレ不況の深刻な実態にあるといえます。」

商業統計調査によると、鶴岡市は平成19年から24年の5年間で卸・小売業全体の従業者数が5年間で約700人減り、年間商品販売額が290億円も減っています。

本所一括仕入れで 地元調達困難

地域別にみると、従業者数が大きく減っているのが櫛引で△23%、売上額で大きく減っているのが藤島で△50%。

202事業所（△11.62%）が減っています。この現状はまさに「デフレ不況の深刻な実態にあるといえます。」

商業統計調査によると、鶴岡市は平成19年から24年の5年間で卸・小売業全体の従業者数が5年間で約700人減り、年間商品販売額が290億円も減っています。

地域別にみると、従業者数が大きく減っているのが櫛引で△23%、売上額で大きく減っているのが藤島で△50%。

202事業所（△11.62%）が減っています。この現状はまさに「デフレ不況の深刻な実態にあるといえます。」

鶴岡市の商業統計から地域別事業所数、従業者数、商品販売額(全数、平成24年・平成19年)

地域 産業中分類	平成24年			平成19年			平成24年/平成19年増減率		
	事業所数	従業者数 (人)	商品販売額 (万円)	事業所数	従業者数 (人)	商品販売額 (万円)	事業所数 (%)	従業者数 (%)	商品販売額 (%)
鶴岡市全域									
卸売・小売業計	1,879	10,170	19,191,534	2,079	10,869	22,096,343	△ 9.62	△ 6.43	△ 13.15
卸売業計	343	1,982	7,551,920	341	2,124	8,456,829	0.59	△ 6.69	△ 10.70
小売業計	1,536	8,188	11,639,614	1,738	8,745	13,639,514	△ 11.62	△ 6.37	△ 14.66
鶴岡地域									
卸売・小売業計	1,438	8,427	16,917,406	1,543	8,820	18,823,512	△ 6.80	△ 4.46	△ 10.13
卸売業計	295	1,802	6,920,889	291	1,884	7,559,468	1.37	△ 4.35	△ 8.45
小売業計	1,143	6,625	9,996,517	1,252	6,936	11,264,044	△ 8.71	△ 4.48	△ 11.25
藤島地域									
卸売・小売業計	98	480	554,665	111	622	1,112,969	△ 11.71	△ 22.83	△ 50.16
卸売業計	10	34	28,396	9	58	208,209	11.11	△ 41.38	△ 86.36
小売業計	88	446	526,269	102	564	904,760	△ 13.73	△ 20.92	△ 41.83
羽黒地域									
卸売・小売業計	76	296	336,545	86	296	400,523	△ 11.63	0	△ 15.97
卸売業計	9	23	104,842	7	23	61,690	28.57	0	69.95
小売業計	67	273	231,703	79	273	338,833	△ 15.19	0	△ 31.62
櫛引地域									
卸売・小売業計	72	318	733,456	89	413	951,912	△ 19.10	△ 23.00	△ 22.95
卸売業計	15	71	369,105	14	86	500,095	7.14	△ 17.44	△ 26.19
小売業計	57	247	364,351	75	327	451,817	△ 24.00	△ 24.46	△ 19.36
朝日地域									
卸売・小売業計	38	127	124,410	49	162	198,028	△ 22.45	△ 21.60	△ 37.18
卸売業計	1	11	X	2	17	X	△ 50.00	△ 35.29	X
小売業計	37	116	X	47	145	X	△ 21.28	△ 20.00	X
温海地域									
卸売・小売業計	157	522	525,052	201	556	609,399	△ 21.89	△ 6.12	△ 13.84
卸売業計	13	41	X	18	56	X	△ 27.78	△ 26.79	X
小売業計	144	481	X	183	500	X	△ 21.31	△ 3.80	X

※平成24年経済センサス-活動調査卸売・小売業結果

平成大合併の影響がある

総農家数（販売農家数+自給的農家数）の推移

	総農家数(戸)		増減	増減割合
	H22	H17		
鶴岡市全域	5,651	6,428	-777	-12.09%
鶴岡地域	2,004	2,275	-271	-11.91%
藤島地域	819	990	-171	-17.27%
羽黒地域	948	1,029	-81	-7.87%
櫛引地域	805	883	-78	-8.83%
朝日地域	564	639	-75	-11.74%
温海地域	511	612	-101	-16.50%

※資料：農業センサス

米の作付率

	H27	H19	増減
鶴岡	59.10%	70.70%	-11.60%
藤島	60.30%	75.10%	-14.80%
羽黒	59.30%	67.30%	-8.00%
櫛引	58.80%	66.10%	-7.30%
朝日	58.60%	62.10%	-3.50%
温海	56.40%	60.20%	-3.80%
合計	59.20%	69.60%	-10.40%

※H27は自主的取組参考値

※平成20年度から段階的に配分統一へ

農業センサスによると、平成17年から22年の5年間で鶴岡市の農家は777戸減り5651戸になりました。

米の生産調整の統一で藤島が打撃

うち鶴岡地域は271戸減り、旧町村で506戸と大きく減っています。米の生産調整は、合併調整で平成21年度までに統一するとされ、平成19年度の市農業振興協議会で基本的な考え方がまとめられました。その結果、米の作付率の地域差は19年の14.9ポイントから27年には3.9ポイントに大きく縮まり、米単作地帯の藤島が減少率14.8%で最大となりました。

うち鶴岡地域は271戸減り、旧町村で506戸と大きく減っています。米の生産調整は、合併調整で平成21年度までに統一するとされ、平成19年度の市農業振興協議会で基本的な考え方がまとめられました。その結果、米の作付率の地域差は19年の14.9ポイントから27年には3.9ポイントに大きく縮まり、米単作地帯の藤島が減少率14.8%で最大となりました。

合併10年の総括集

共産党市議団では、鶴岡市合併10年の総括をおこない、このほど報告書をまとめました。ネットや党鶴岡地区委員会です。

私の昭和

⑦

鈴木重雄（88歳・八色木）

1年生担任・佐藤彌一郎先生（三川町横山）12年間勤務され、スタイルがよく黒縁の大きな眼鏡にチョピヒゲをはやした優しい先生であった。今のように保育園も幼稚園もない時代で、49名の大人数だったから苦勞も多かったと思う。しかも教頭職も兼ねて

長沼小学校長を勤められ、退職後は、三川町短歌会の詠草で荘内日報にお名前が出ていた。

らわれていると考えられます。合併で庁舎・公民館・学校等で使用する事務用品が本庁一括仕入れになります。

閉鎖したことや農業資材の（株）両国屋が2011（平成23）年12月に自己破産した影響が卸売業の数字に表れています。

旧町村の従業者数は△20%台で減少し、売上は小売業でも藤島の△42%と減少は大きく、

「爆買い」と「爆売り」

(新町 齋藤留治)

今年の流行語大賞のひとつに上がっている「爆買い」、言葉は何か変な語感がしますが日本の経済にはとつても温かい響きを与えていると思います。

以前、日本人もツア一等で外国に出かけると、今テレビ等で放映されている姿とそっくりな行動をしていたような気がします。

中にはあまり買い過ぎて、せつかく買った土産物を置き忘れてしまふというハプニングを目にしたこともありました。

一方、表現が適当かどうか判りませんが、安倍政治は国民の意に反してアメリカに「爆売り」をしていると私には思えてなりません。

数年前バンクーバー(カナダ)に滞在中、学校からの帰りにスーパーに寄って美味そうに見えたミカンを買ったところ、1週間位でカビが生えて半分位食べる事が出来ませんでした。

南米ペルー産と表示されていましたが、その時はペルーでもミカ

ンが採れるんだと思っただけでしたが、船底に何日も防菌剤漬けされた挙句に薬の期限切れで起きた出来事。

米も国内産のコメが余れば家畜の飼料米にすればよいと虚言していますが、考えてみると酪農が崩壊したら食べる家畜もいなくなるので、やがて日本中が飼料米で溢れてしまつて人間が住む所が無くなるなんて笑えない日が来ないとも限らない。

海外滞在中に私が泊めてもらった家庭では夕食には現地の米を食べておりましたが違和感は殆どありませんでした。日本の農業崩壊に繋がるTPP、憲法無視の戦争法、若者の夢を奪う派遣社員

の苦しみ等々、将来に禍根を残すような政治を続ける安倍政治を、庶民を売り渡す「爆売

484人の署名

「こりす保育園保護者会」が11月9日、市子育て推進課に484人の署名を添えて「民営化に関する要望書」を提出しました。

要望書では、「保育の質を下げないこと」や「市の保育士を7人以上上田向配置すること」など7項目をあげています。

こりす保育園(定員220人)の来年度の入所児童数は現行190人から170人に減り、3歳児が4から3クラスに減る見込みです。

1月に第3回保護者会説明会が予定されています。

「と言わないで何と言ったらよいのか判らない。



くやくしくも熟柿(じゆくし) 仲間の坐につきぬ

—しんぶん赤旗を読んで 青山崇

俳人で正岡子規などの研究で知られる坪内

稔典の「ねんてん先生の文学のある日々」が、しんぶん赤旗に月1回連載されている。標記の句は一茶の作で、歯がなくなつて堅い柿が食べられなくなつた老人(熟柿)の気持ちを詠んでいる。私は若い時から熟柿好きだったが…。

さて本題は、文学の柿の話である。幾年前まではほとんどの家

に柿があり秋を代表する風物であった。私も自宅を新築したとき、「柿を1本でいいから植えておけ」と言われた。ところがその背景には歴史があるようだ。

「里古(ふ)りて柿の木持たぬ家もなし」と芭蕉も詠んでいる。江戸の昔、嫁は柿の枝を持参し、嫁ぎ先の柿に接ぎ木し、亡くなると火葬の薪や骨を拾う筈にするという風習があったという。

しかし平安時代はど



金がモノいう世の中

これはさびしいことですが、金がモノいう世の中ですか。この頃そんな報道が多すぎませんか。いつかある大臣が「さもしい」と言ったことがあったが、人の先に立つ人達のことなんですヨ。

▲なぜ大臣になると金の問題になるんでしょうか。文厚・復興・農

林など大臣にならなければ報道されなかったのだ。だから他の大臣候補と言われるような方達は、罪になる金が入っても知らんぷりが多いということになる。

▲金を貰うときは警戒しないんでしょうか。だってどんな時でも、金を出す人の下心を感ずるでしょうに。そんな時、俺だったら感ずると思うがナ。

▲人の先に立つ人と言えば驚いたのが、校長先生が教科書会社から金を貰ったというもの

うか。『源氏物語』に代表される雅(みやび)文学は、食べ物を俗として嫌う文学で、貴族の屋敷に甘味用としての柿の木はあるが、食べ物の柿は文学に登場せず、登場するのは江戸からである。「鶯や餅に糞する縁の先」芭蕉の句である。なお、柿といえは俳句の代名詞といわれる正岡子規の句、「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」がある。

だったぜ。俺からみれば大臣とは比べられない偉い人なんです。露骨な金が動き出すようだぜ。沖縄に、国の言うことを聞く方々にだけ金を出すというのだヨ。これには大変大きな問題があるぜ。

▲第一に国の金で買収することになるでしょう。次に地域の自治を壊すことになるでしょう。会計法の上からも問題ですよ。

▲先の衆議院選挙で自民・公明は全部落選したんです。この流れの来年の参議院選挙に金をブチ込むというのだ。明らかに買収でしょう。

▲同じ地域で金の恩恵にあずかる人とそうでない人が出るでしょう。隣組・又は道路を挟んでいがみ合い、地域社会の破壊ですよ。

▲国の金は、県の予算を通し、市の議会にかけて交付される仕組みなんです。こんな出鱈目許せないぜ。(石川)



しんぶん赤旗2015年11月6日付け